

◆新実祥悟議員 議長の許可をいただきましたので、通告の順に一般質問をさせていただきます。

大きい1番、まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップについてお尋ねいたします。

この件につきましては、もうすでに代表質問等で質問されました。私の前段というのですか、前置きのようなものは省かせていただくことにしますが、御答弁のほうは、申しわけないですが、きちんとお願いいたします。

それでは、(1)塩津地区の状況についてです。平成29年度に実施した塩津地区の公共施設の将来を考えるワークショップの実施状況についてお尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 塩津地区で開催したワークショップは、公募した23歳から67歳までの男性16名、女性14名、合計30名の参加者で、平成29年7月22日から平成30年2月3日までに予定していた5回のワークショップを開催いたしました。

ワークショップでは、1回目で進め方の確認を行い、2回目で地区の課題の抽出、3回目と4回目で施設再配置案の検討、5回目で施設再配置案の絞り込みを行いました。塩津地区のワークショップでは、子育て環境に関することと世代間や地域との交流についての関心が高く、御意見が集中した印象を持っております。

ワークショップで検討された施設の再配置案は7つで、この案の中から絞り込みが行われました。再配置案の絞り込みでは、第1回から4回までのワークショップで整理した重視する視点に沿って議論され、その中でも学校への通学距離や学習環境の確保、保育園のサービス向上、世代間の交流機会の創出などが多く意見されました。結果として、多様な方々の交流と充実した子育ての拠点をつくるプランが、最も期待されるプランになりました。このプランは、塩津小学校に塩津保育園、塩津北保育園の統合園と、塩津公民館の機能を複合化し、塩津中学校は適正規模で更新していくというものでございました。

◆新実祥悟議員 では、(2)西浦地区の状況についてです。同じく昨年度西浦地区の公共施設の将来を考えるワークショップが開催されておりますが、この実施状況についてお願いいたします。

◎壁谷勇司総務部長 西浦地区で開催したワークショップは、公募した23歳から84歳までの男性15名、女性15名、合計30名の参加者で、平成29年9月9日から平成30年2月25日までに予定していた5回のワークショップを開催いたしました。

ワークショップの進め方については塩津地区と同様で、5回のワークショップを開催いたしました。

西浦地区では、児童生徒数の減少を懸念することから、教育環境の適正化が大きい

なテーマとなりました。また、地区内の高齢化の進行や人口減少が進んでいることについても、懸念されている参加者が多く、地区の活性化や人口減少、少子高齢化社会への対応などに関心の高い視点になっております。

ワークショップでは、5つの再配置案が検討され、第5回目に実施した再配置案の絞り込みでは、小中学校の児童生徒の人数が減少していることを原因として、学校の配置が大きな要素となりました。少人数で運営される小学校、中学校では、児童生徒が切磋琢磨したり、互いに見習う環境として不安を感じる方や、満足な部活動選択ができないことに疑問を感じる方など、活発な議論がなされたと認識しております。

これらの議論を経て、ワークショップの結果として最も参加者の期待が大きい再配置案は、利便性の高いエリアに機能を集めて、地域の拠点をつくるプランとなりました。このプランは西浦小学校の敷地で、西浦中学校と公民館を複合施設化し、比較的新しい建物である西浦保育園としうら児童館は、現状で使い続けて適切な建て替え時期に西浦保育園の位置で児童館を複合するというものでございます。

◆新実祥悟議員 すみません。先ほど西浦地区の件を伺う前に、昨年度と申し上げました。昨年とことしにかけてということで訂正させていただきます。

では、(3)市の考え方についてお尋ねいたします。塩津地区も西浦地区も、住民の方が参加されて、適正な判断がされたというように、御意見が出てきたというように思っているわけなのですが、そういった中で、再配置案が絞り込まれたと。この結果を市はどのように捉えて、地区個別計画を策定していくのでしょうか。御答弁をお願いいたします。

◎壁谷勇司総務部長 ワークショップでは、参加者の皆様に地区の課題を検討していただき、その解決策として施設の再配置を検討していただいております。このような観点からしても、期待の大きな再配置案は、地区の特性を捉えたもので、住民の皆様の公共施設に対する御要望の多くは盛り込まれたものだと考えております。

これから市が策定する地区個別計画では、なるべくこの期待に応えていけるように作業を進めていきたいと考えております。

◆新実祥悟議員 それでは、この地区個別計画ですが、策定作業に取り掛かるといってお話なのですが、いつ頃取り掛かっていくのか、お願いいたします。

◎壁谷勇司総務部長 地区個別計画の策定に当たっては、ワークショップで示された案についても、施設の複合化等が含まれており、調整作業が必要でございます。

地区個別計画の策定期間については、決めた期日はございませんが、早急にそれ

らの調整作業に取り掛かり、ワークショップで議論していただいた参加者の皆様の熱が冷めない、なるべく早い時期に計画をまとめていきたいと考えております。

◆新実祥悟議員 それでは、次の質問に移ります。

(4)事業実施時期についてでございます。市内7地区でワークショップを開催し、地区個別計画を策定していくとのことですが、地区個別計画でまとめられた計画の実施時期についてお尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 地区個別計画を策定した後の事業実施については、なるべく早く着手し、地区の皆様の意見を見える形にしたいと考えております。

しかしながら、公共施設マネジメントでは、財政的負担の平準化も大きな課題であり、この点も考慮して実施しなければなりません。策定された地区における地区個別計画に含まれる全ての施設の再配置を一度に実施することは財政的負担の観点からも難しく、学校や保育園などの施設においては、運営上でも大きな問題が発生します。

これらの要素を考慮し、課題が解決されたものから、なるべく早い時期に実現していきたいと考えております。

◆新実祥悟議員 今回、特にこのことについて強くお尋ねしたわけなのですが、実はワークショップに出られている委員の皆さんの中からも、自分たちがここまでしっかりしたものをつくっているのだと、だから早く目に見える形で実現してほしい、いろいろな不具合があるということ承知している中で、我慢してきているのだよ、というようなお話をいただいているわけです。その話を伺うと、やはり市のほうで、早急に取り組んでいただきたいな、実施していただきたいなというように思っているわけなのです。

先ほどの総務部長の御答弁をいただくと、いろいろな問題点があるのですよということなのです。

教育委員会との調整ですとか、そういったことも、柴田議員の質問の中でも御答弁されていたわけなのですが、私は、そういう御答弁ができるということは、問題点については、もうすでにほぼ拾い出しが終わっているのではないかなというように感じているわけなのです。そうであるなら、これは問題点がわかっているということにおいては、実施時期というのは極力早くできるのではないかなというように思っておりますので、御答弁をいただくということではないのですけれども、1つの意見として、極力早く実施していただけたらありがたいなというように思っております。お願いいたします。

では、(5)の新年度のワークショップ実施地区についてお尋ねいたします。

既に御答弁もあったわけなのですが、平成29年度は塩津地区と西浦地区でワークショップを開催いたしました。平成30年度はどの地区で開催する予定なのか、これをお尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 平成 29 年度に実施した2地区は、建物の老朽化が市内で一番進んでいる塩津地区と、建物の築年数が最も大きい西浦地区で開催いたしました。これらの観点を含めて、来年度開催する地区については、3月末をめどに決めていきたいと考えております。

◆新実祥悟議員 市内全体で、これからやっていくということですので、どういう決め方をされるのかちょっとわかりませんが、なかなか難しいところから始めていくというやり方もあると思いますし、簡単などころからいくという部分もあるかもしれませんが、うまく1年間でまとまっていけるように促していただければと思います。ありがとうございました。

では、大きい2番、市の公式SNSについてお尋ねいたします。

(1)として市のSNS利用についてです。まず、これまでの市のSNSへの取り組み状況をお尋ねいたします。

◎大原義文企画部長 蒲郡市としましては、これまでホームページ、メール配信サービス「安心ひろめーる」、がまごおりインターネットTV、YouTube による動画配信を行っておりましたが、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の導入につきましては、今年度から始めました公式Instagram「いいじゃんがまごおり」が初めての取り組みでございます。

以上です。

◆新実祥悟議員 今回、この質問を取り上げさせていただいた理由というのですが、昨年このInstagramを市がやるようになったと。私自身もInstagramというのは、どんなものか全然わからなかった中で、よこしまな気持ちが起こったというのですかね。市でこれをやるに当たって、「いいじゃんがまごおり」で採用される、あるいは、「いいじゃん赤い電車」で採用されると何かくれるという話があったものですから、ついやってしまったと。全然わからない中でやってしまったわけなのですが、ただ、やった中で、自分が関わった中で、これはすごい可能性を秘めているのだなというように思ったわけなのです。

これまで、仮想空間の中での話というのは、実社会とはまったくかけ離れた、そういったものなのかなというように、そんな目で見えていたのですが、実際には仮想空間自体がもう実社会の中に入ってきている、実社会が仮想空間ではないのかなと逆に思ってしまうような状況にあるのかなと思って、取り上げさせていただきました。

実際には、私が取り上げるよりも、後ろにいる鈴木貴晶議員が取り上げたほうがいいのかと思っていますぐらいなのですが、それでもちょっとだけ関わったもので、お尋ねさせていただくわけなのです。

それで、(2)として、Instagram「いいじゃんがまごおり」の状況についてですが、これまでの「いいじゃんがまごおり」の状況と手ごたえについてお尋ねいたします。

◎大原義文企画部長 蒲郡市では、平成 29 年 5 月 11 日に、市の公式 Instagram「いいじゃんがまごおり」を開設いたしました。愛知県内では現在、本市と豊田市、豊橋市、豊川市、田原市、あま市の 6 市が公式 Instagram を導入しております。

この Instagram は、シティプロモーションの一環として開設しまして、蒲郡の豊かな自然、日常の風景、イベント、蒲郡と縁があり頑張っている人などを、見ているだけで「いいじゃん」と言えるような物、人、事にスポットをあてた写真を日々掲載しております。

平成 30 年 2 月 22 日現在で、投稿数が 289 件、フォロワー数が 1,746 人、「いいじゃんがまごおり」のタグの付いている投稿写真が、2,674 件、総「いいね」数が 5 万 5,400 回以上となっております。

Instagram を開設する際に、今年度の目標フォロワー数を 500 人としておりましたが、現在はその数値を大幅に超えておまして、Instagram を導入している他市と比較しても、人口規模から見て多いフォロワー数となっており、Instagram の利用者の方に「いいじゃんがまごおり」を支持していただいているという認識をしているところでございます。

以上です。

◆新実祥悟議員 今、実績というのを御披瀝していただきました。この数字、私はすごいというように思っています。新聞ですとかテレビで、いろいろな Twitter ですとか、そういったもののフォロワー数の話が選挙のたびに出てきたりするわけなのですが、そこで 10 万、20 万というお話もありますが、そうではなくて、公共団体がやる Instagram という SNS のフォロワー数が、1,746 もあるということに驚きを覚えているわけなのです。

私自身、Instagram を始めて、実はフォロワー数 3 なのです。妻と、娘と、あと 1 人は知らない人。実際には自分の実名を挙げているわけではなくて、匿名でやっていますので、全然関心を持ってもらえないという部分もあるかもしれませんが、そういうことにしておきます。

フォロワー数は 3 ですが、「いいね」というのを押してくれる人は、やはりもう少し多くて十数名いるのですけれどね。そういう中で、「いいね」が 5 万 5,400 回。これもすごいなと思っているわけなのです。このような中で、本当にこれを使うことによって、今まで市の施策を周知させるというのは非常に難しかった中で、なにかうまく利用できるのではないのかなというようにも思っているわけなのです。

そこで、次の(3)の今後の展開についてお尋ねするわけなのですが、インスタグラムなど、SNSをどう展開していく所存があるのかというところをお尋ねいたします。

◎大原義文企画部長 昨年11月に名鉄西尾・蒲郡線の赤い電車応援企画とコラボして、「いいじゃんがまごおり」のフォロアーを対象とした、赤い電車の魅力を写真で伝えていただく、乗って残そう赤い電車インスタグラムフォトコンテストを実施いたしました。

また、ことし1月と2月には、企画政策課の定住促進企画の蒲郡モニターツアーとコラボをしております。このツアーは、蒲郡市への移住を検討している方を対象とした1泊蒲郡生活体験ツアーでございまして、「いいじゃんがまごおり」でモニター参加者の募集告知を掲載し、またツアー利用者が自身のSNSで発信する写真に「いいじゃんがまごおり」のタグを付けていただくなど、相互で協力する内容でありました。

また、春日浦住宅公式サイトとインスタグラム「いいじゃんがまごおり」をリンクさせまして、春日浦の土地の購入を検討している方に、蒲郡のまちの魅力を写真で見て知っていただけるようにしております。

このように徐々にではありますが、蒲郡市の広報基盤として利用されているところでございます。今後につきましては、引き続き様々な形で他のイベント、事業とインスタグラム「いいじゃんがまごおり」との連携を図りまして、蒲郡市への観光客や定住者の増加へのきっかけとなるべく、新たな蒲郡の魅力発信を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 こういったことも、どんどん新しい施策として展開していけるということが、本当によくわかります。

また私事なのですが、これはSNSといっても、また別のものなのですが、あるお店の評価について、ちょっと素晴らしいねというようなことを投稿させていただいたのですね。そうしたら、それを見てくれた人が、そのお店に行ったよ、来てくれたよという話が実際にあったのですね。驚いたのです。そんな反応があるのかなと。自分では投稿したけれども、そんな反応というのはどこかよその国の話なのかなと思っていたのです。でも、自分の目の前で、たったの1件のことなのですが、現実になんかそういうことが起こると、やはりこれは実社会の中で本当に動いているのだというような、そういう実感を持ったわけなのです。

もう1点面白いのは、やはり同じように投稿させてもらったのです。ずばり言いますが、鹿島児童遊園地、これを投稿したのです。私としては小さな児童公園で、評価としては、建設部長、申しわけない。都市開発部長、どちらになるのですか知りません。教育委員会になるのか知りませんが、評価としては、私は1なのです。ですから星1個しか出さなかった。だけど、この公園というのは、駐車場もあってトイレも

ありますよというのを付けたのです。なおかつ、独り占めのできる公園ですよというように評価を出させていただきました。そしたら、やはりそれを見てくれた人がいるのですね。反応があった。見てくれた人、新記録なのですよ。何人か。2人。

2人しかいないのだけれども、だけど、あんな小さな公園のことでも見てくれる人がいるということで、それ自体驚いたのですね。ということで、こういったSNSの効果というのは、本当に自分たちが思っている以上に、実社会の中で皆さん利用しているのかなというのが実感なのです。

そこで次の質問なのですが、こういったSNSから得られたデータを利用して、政策にこれからつなげていくのではないかなというように思うのですが、その辺どのようにお考えになっているのか、お答えをお願いします。

◎大原義文企画部長 インスタグラム単体の機能としては、細かなデータを取ることにはできません。ただ、今新実議員おっしゃったとおり、いろいろな御意見をお聞きするとか、そういうことは実際として入ってまいります。

SNSとは異なりますが、データの利用としましては、経済産業省と内閣官房が提供しております地域経済分析システム、いわゆるRESASというものを活用しております。RESASでは、人口推移だとか、産業、観光、企業情報など、市町村別のデータをインターネット上で閲覧することができまして、効果的な施策の立案、検証で幅広く利用しているところでございます。

今後もRESASのデータや、担当課がアンケートの実施などで蓄積した情報を活用しまして、政策につなげてまいりたいというように考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。総務省ですとか、そういったところからも出されているというようなことなのですからけれども、それだけではなくて民間企業が、例えばマスコミがこういったビッグデータを利用して、皆さんに発信しているデータを利用してくださいということもやっているという、そういったこともあるようです。どうぞこれからも、こういったSNSというのを本当にしっかりと受け止めていただいて、政策に役立てていただければありがたいなというように思います。そんなことを考えている議員が、鈴木貴晶議員だけではなくて、もう1人、歳はいつているけれども、いますよということをお知らせさせていただいて、私の一般質問とさせていただきます。

どうもありがとうございました。